

## 繁殖期における奥尻島の鳥類相

藤巻裕蔵

〒072-0005 美唄市東4条北2丁目6-1

### Avifauna of Okushiri Island in Breeding Season

YUZO FUJIMAKI

Higashi 4, Kita 2-6-1, Bibai, Hokkaido, 072-0005 Japan

**Abstract.** A total of 80 species of birds were recorded on Okushiri Island, south-western Hokkaido, on 21 July, 2008 and from 2 to 4 May, 2009. In early May both breeders and passage visitors were observed. Main species were *Emberiza rustica*, *Carduelis sinica* and *Passer montanus* in agricultural land and *Turdus naumanni*, *Urosphena squameiceps*, *Cettia diphone*, *Phylloscopus borealoides* and *Emberiza spodocephala* in forests. On the island three species of *Dendrocopos*, *D. leucotos*, *D. major* and *D. kizuki*, occur during breeding season. The presence of *D. leucotos/D. major* combination during breeding seasons in a small island such as Okushiri Island is considered to be a rare case.

奥尻島は渡島半島の日本海側、北海道本土から約18kmの距離にある。面積は142.74km<sup>2</sup>で、北海道の離島のなかでは利尻島に次いで二番目の大きさである。北海道の日本海側ではカラフトムシクイ、ムジセッカ、カラフトムジセッカなど日本では繁殖しない種が渡り時期に通過しており（環境庁、1996）、また日本海側にある利尻島や天売島ではルリガラ、シマノジコ、ヒメイソヒヨなど数種の迷鳥が記録されているので（藤巻、2000）、奥尻島の位置からみて、この島の鳥類相は興味あるものである。

これまで奥尻島における鳥類調査は、小山・小山（1981）、三浦（1988）、鈴木ほか（1990）により、おもに繁殖期に行われており、この時期の鳥類相の概要が明らかにされている。

2009年5月上旬に奥尻島南部において北海道バンダー連絡会による標識調査が行われたが、私はこの会の一員としてこの調査に参加し、標識調査地周辺でラインセンサスを行うと同時に、標識調査地周辺と島内を移動中に観察された鳥類を記録し、この

時期の鳥類相の概況に関する資料を収集した。このほか2008年7月の旅行のさいに行ったセンサスの結果も使用した。これらの調査では、これまでの調査で得られた知見に追加すべき点がいくつかあるので、ここに報告することにした。なお、標識調査の結果については別に発表する予定である。

報告にあたり、標識調査・島内移動中に記録した鳥類リストの利用をこころよく承していただいた、今回の調査参加者、古園由香、杉山弘、武本行和、辻幸治、富川徹、仲村昇、林吉彦、伴野俊夫、猿子正彦、柳田和美の各氏にお礼申し上げる。なお、この調査は2009年度北海道新聞野生生物基金の助成を受けた。

#### 調査地、調査方法、調査時期

調査地は次の4か所で、距離はいずれも2kmである。このうち3か所についてはそれぞれ調査路沿いの環境の割合を示す。

調査地1. 青苗川下流部の農耕地（標高40m）。

米岡地区農免道路を道道 39 号から青苗川沿いに北に 2km. 畑・水田 56%, 草地 34%, 林 3%, ササ地 5%, 裸地 2%.

調査地 2. 青苗川上流部の針広混交林 (標高 75 m). 万年橋から青苗川沿いの道を北に 1.5km, 南に 0.5km, 計 2km. スギ林 39%, 落葉広葉樹林 42%, ササ地 4%, 草地 10%, 畑 5%.

調査地 3. 奥尻町営牧場の落葉広葉樹林 (標高 220 m). 舗装道路の入口から牧場内 1.5km, 舗装道路を南に 0.5km の計 2km. 落葉広葉樹林 44%, 落葉広葉樹低木林 24%, ササ地 7%, 草地 25%.

調査地 4. 湯の浜 (標高 10 m). 道道 39 号を神威脇の川から南に 2km. 全域にわたり落葉広葉樹林 (一部低木) と高茎草原のモザイク状の環境.

調査時期は, 2008 年 7 月 21 日 (調査地 4) と 2009 年 5 月 2 ~ 4 日 (調査地 1 ~ 3) で, 調査時間帯は, 4:40 ~ 6:40 である. 調査路を約 2km/時 で歩きながら片側 25m, 計 50m の幅に出現する鳥類の種と個体数を記録した. 観察帯外で観察された場合には, 個体数には含めなかったが, その調査地周辺に生息するものとし種だけを記録した.

## 結果と考察

調査結果を Table 1 に示す. 観察された種数は調査地 1 で 23, 調査地 2 で 21, 調査地 3 で 16, 調査地 4 で 15 で, 4 か所での延べ観察種数は 44 種であった. このほか, 調査時以外に調査地 1 でゴイスギ, コサギ, アオサギ, シノリガモ, ハヤブサ, チゴハヤブサ, コチドリ, クサシギ, オオジシギ, タシギ, セグロカモメ, オオアカゲラ, ヒバリ, ツバメ, ビンズイ, タヒバリ, キレンジャク, シロハラ, アトリ, ベニマシコ, イスカ, 調査地 2 でオシドリ, ミサゴ, アマツバメ, モズ, カワガラス, コルリ, メジロ, 調査地 3 でノスリ, キアシシギ, コマドリ, イソヒヨドリ, アカハラ, クロジが, 島南部の松江でヤツガシラが観察された. さらに標識調査でルリビタキが捕獲されたので, 記録されたのは全部で 80 種である.

調査地 1 は農耕地で家周辺ではスズメ, 畑ではカワヒワや渡り途中のカシラダカが群れで見られ, こ

れら 3 種が主要な種であった. また調査路の始点が海岸に近かったため, カモメ類が観察された. 調査地 2 と調査地 3 の環境の大部分は森林で, ツグミ, ヤブサメ, ウグイス, エゾムシクイ, アオジが多く, 次いでヒヨドリ, ハシブトガラ, ゴジュウカラ, カワラヒワなどがおもな種であったが, 一般に北海道の森林で優占種となるセンダイムシクイやキビタキは少なかった. 札幌におけるこの 2 種の初認記録は 5 月上・中旬なので (藤巻, 2000), これらは渡来し始めたばかりとおもわれ, 生息数がまだ少なかったのかもしれない. 調査地 4 の調査時期は 7 月 21 日で繁殖期の鳥類相を把握するには遅すぎ (藤巻, 2009), 環境が多様であるわりには観察された種が少なかった.

ラインセンサス時以外に記録された種も含め, 5 月上旬に調査した 3 か所の鳥類相全体をみると, 夏鳥がすでに渡来している一方で, 高標高で繁殖するマヒワやイスカがまだ残っていたり, タヒバリ, キレンジャク, ツグミ, カシラダカのような旅鳥がまだ渡り途中で, 冬から繁殖期の鳥類相への移行期であるといえる. 2005 年 5 月 1 日に利尻島杓形の森林で観察をしているとき, カラフトムシクイが数か所で盛んに囀っており, この種が春の渡りで利尻島を通過することがうかがえたが, 今回の調査では同時期であったが, カラフトムシクイは観察されなかった. このことは種によっては日本海側の島がすべて渡りルートに含まれているわけではないことを示している.

これまで奥尻島では小山・小山 (1981) が, 今回と同時期の 1981 年 5 月 3 ~ 5 日に神威脇から青苗, 稲穂岬までの海岸線, 青苗川沿い, 稲穂 ~ 球浦で観察を行い, 42 種を記録した. 三浦 (1988) は 5 月 25 日に塩釜川沿い, 幌内川沿い, 球浦, 勝潤山周辺の 6 か所, 6 月 17 ~ 19 日に勝潤山, 神威山, 塩釜川沿い, 谷地, 大岩生川河口, 青苗川沿いの 8 か所でラインセンサスを, 10 月 8 ~ 11 日に球浦で標識調査を行い, 41 種を記録した. その後, 鈴木ほか (1990) は, 1989 年 7 月 3 ~ 5 日に大岩生, ホヤ石, 藻内, 青苗の森林 7 か所でラインセンサスを行い, 31 種を記録した. 鈴木ほか (1990) の調査は, 森林だけで行われたので, 他の 2 調査に比べて種数が少なかった. 今回の調査では 80 種が記録され,

Table 1. Results of line census on Okushiri Island.

Figures indicate the number of birds counted on 2km transect of 50m width. +: records outside transect.

Species	Site 1	Site 2	Site 3	Site 4
	4 May, 2009	2 May, 2009	3 May, 2009	21 July, 2008
<i>Phalacrocorax capillatus</i>				+
<i>Egretta alba</i>	+			
<i>Anas platyrhynchos</i>	2			
<i>Anas poecilorhyncha</i>		+		
<i>Phasianus colchicus</i>	+			
<i>Larus schistisagus</i>	+			+
<i>Larus crassirostris</i>	+			+
<i>Streptopelia orientalis</i>	+	1		1
<i>Dendrocopus major</i>	+			
<i>Dendrocopus leucotos</i>				
<i>Dendrocopus kizuki</i>				+
<i>Motacilla cinerea</i>	+	1		
<i>Motacilla alba</i>	+			2
<i>Hypsipetes amaurotis</i>	1	+	1	4
<i>Lanius bucephalus</i>	+			
<i>Troglodytes troglodytes</i>		+		
<i>Saxicola torquata</i>	+			
<i>Monticola solitarius</i>				2
<i>Zoothera dauma</i>		1		
<i>Turdus cardis</i>	+	+	+	+
<i>Turdus naumanni</i>	3	2	3	
<i>Urosphena squameiceps</i>		5	3	
<i>Cettia diphone</i>	1	4	4	7
<i>Phylloscopus borealoides</i>		4	+	
<i>Ficedula narcissina</i>		+		
<i>Cyanoptila cyanomelana</i>		+		
<i>Parus palustris</i>			1	
<i>Parus ater</i>		+		
<i>Parus varius</i>		+	+	
<i>Parus major</i>			+	4
<i>Sitta europaea</i>		2	1	2
<i>Emberiza cioides</i>	3	1		4
<i>Emberiza fucata</i>			+	
<i>Emberiza rustica</i>	20			
<i>Emberiza spodocephala</i>	1	5	2	
<i>Emberiza variabilis</i>			+	
<i>Carduelis sinica</i>	9		1	4
<i>Carduelis spinus</i>		1		
<i>Eophona personata</i>			+	
<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		1		
<i>Passer montanus</i>	16			
<i>Sturnus philippensis</i>	+			
<i>Corvus corone</i>	3			
<i>Corvus macrorhynchos</i>	3	+	1	2

Table 2. A list of bird species recorded on Okushiri Island.

\* : Bird species recorded except line census.

Species	Koyama & Koyama 1981	Miura 1988	Suzuki <i>et al.</i> 1990	Present
<i>Phalacrocorax capillatus</i>	○			○
<i>Nyctycorax nyctycorax</i>				○*
<i>Egretta alba</i>				○
<i>Egretta intermedia</i>	○			
<i>Egretta garzetta</i>				○*
<i>Ardea cinerea</i>				○*
<i>Aix galericulata</i>	○			○*
<i>Anas platyrhynchos</i>	○			○
<i>Anas poecilorhyncha</i>				○
<i>Histirionicus histrionicus</i>	○			○*
<i>Pandion haliaetus</i>				○*
<i>Pernis apivorus</i>		○		
<i>Buteo buteo</i>				○*
<i>Falco peregrinus</i>	○			○*
<i>Falco subbuteo</i>				○*
<i>Phasianus colchicus</i>				○
<i>Charadrius dubius</i>	○			○*
<i>Tringa ochropus</i>				○*
<i>Heteroscelus brevipes</i>	○			○*
<i>Gallinago gallinago</i>				○*
<i>Gallinago hardwickii</i>		○		○*
<i>Larus argentatus</i>	○			○*
<i>Larus schistisagus</i>	○			○
<i>Larus glaucescens</i>	○			
<i>Larus hyperboreus</i>	○			
<i>Larus crassirostris</i>	○			○
<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	○
<i>Sphenurus sieboldii</i>		○	○	
<i>Cuculus fugax</i>		○		
<i>Cuculus saturatus</i>		○	○	
<i>Apus pacificus</i>		○		○*
<i>Halcyon colomanda</i>		○		
<i>Upupa epops</i>				○*
<i>Dendrocopos major</i>		○		○
<i>Dendrocopos leucotos</i>		○	○	○*
<i>Dendrocopos kizuki</i>		○	○	○
<i>Alauda arvensis</i>	○	○		○*
<i>Hirundo rustica</i>	○			○*
<i>Delichon urbica</i>	○			
<i>Motacilla cinerea</i>	○	○	○	○
<i>Motacilla alba</i>	○	○		○
<i>Anthus hodgsoni</i>	○	○	○	○*
<i>Anthus spinoletta</i>				○*
<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	○
<i>Lanius bucephalus</i>			○	○
<i>Bombycilla garrulus</i>				○*
<i>Cinclus pallasi</i>			○	
<i>Troglodytes troglodytes</i>				○

Table 2. (Continued)

Species	Koyama & Koyama 1981	Miura 1988	Suzuki <i>et al.</i> 1990	Present
<i>Erithacus akahige</i>				○*
<i>Luscinia calliope</i>		○*		
<i>Luscinia cyane</i>			○	○*
<i>Tarsiger cyanurus</i>				○*
<i>Saxicola torquata</i>				○
<i>Monticola solitarius</i>	○			○
<i>Zoothera dauma</i>			○	○
<i>Turdus cardis</i>		○		○
<i>Turdus crysolais</i>	○	○		○*
<i>Turdus pallidus</i>		○*		○*
<i>Turdus naumanni</i>	○	○		○
<i>Urosphena squameiceps</i>	○	○	○	○
<i>Cettia diphone</i>	○	○	○	○
<i>Phylloscopus borealoides</i>			○	○
<i>Phylloscopus coronatus</i>	○	○	○	○*
<i>Ficedula narcissina</i>		○	○	○
<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	○	○	○
<i>Aegithalos caudatus</i>		○	○	○
<i>Parus palustris</i>			○	○
<i>Parus montanus</i>	○			
<i>Parus ater</i>	○	○	○	○
<i>Parus varius</i>		○	○	○
<i>Parus major</i>	○	○	○	○
<i>Sitta europaea</i>	○		○	○
<i>Zosterops japonicus</i>			○	○*
<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	○
<i>Emberiza fucata</i>		○		○
<i>Emberiza rustica</i>	○	○*		○
<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○	○	○
<i>Emberiza variabilis</i>		○	○	○
<i>Fringilla montifringilla</i>				○*
<i>Carduelis sinica</i>	○	○	○	○
<i>Carduelis spinus</i>				○
<i>Loxia curvirostra</i>				○*
<i>Uragus sibiricus</i>	○	○		
<i>Eophona personata</i>		○	○	○
<i>Coccothraustes coccothraustes</i>				○
<i>Passer montanus</i>	○	○		○
<i>Sturnus philippensis</i>	○			○
<i>Sturnus cineraceus</i>	○			
<i>Corvus corone</i>	○	○		○
<i>Corvus macrorhyncos</i>	○	○	○	○

これまでの3調査の結果に21種が新たに追加された (Table 2)。今回記録種数が多かったのは、さまざまな環境で調査したこと、観察者の人数が多かったこと、早朝から夕方まで観察時間が長かったことによるものであろう。また、これまでの調査で記録されている、今回観察されなかった種は、ハチクマ、ジュウイチ、アカショウビン、ノゴマ、コガラなど15種である (Table 2)。このうちコガラは北海道本土の東部以外の地域では繁殖期に比較的標高の高い森林に生息している留鳥であり (藤巻, 2000)、三浦 (1988) や鈴木ほか (1990) も奥尻島では記録しておらず、ハシブトガラとの識別ができていなかった可能性が考えられる。

今回観察された鳥類のうち、とくにキツツキ類の生息状況について述べておく。日本列島とその近隣の島におけるキツツキ類の繁殖分布をみると、一つの島で繁殖する種数は大きな島ほど多く、生態の類似するオオアカゲラとアカゲラは小さな島では共存できないことが知られている (Higuchi, 1980)。北海道の離島のうち利尻島ではクマガラ、アカゲラ、コゲラの3種が繁殖し、これまで繁殖期における多くの観察でもアカゲラとコゲラの2種が記録されている (樋口・小池, 1978; 今野・藤巻, 2001)。利尻島ではヤマゲラ、オオアカゲラ、コアカゲラも生息するが、記録されているのは渡り時期と冬だけである (利尻島自然情報センター, 1997)。今回奥尻島ではアカゲラ、オオアカゲラ、コゲラの3種が観察された。今回の調査時期は繁殖期ではあるが、渡り時期でもあたるため、オオアカゲラが観察されても、この島で繁殖するのか、利尻島におけるように渡り時期と冬に観察されるだけなのかは不明であるが、三浦 (1988) は6月17日に、鈴木ほか (1990) は7月上旬にアカゲラ、オオアカゲラ、コゲラの3種を観察していて、これら3種が繁殖期に継続して島に生息していることは明らかであり、繁殖しているのはほぼ確実であろう。鈴木ほか (1990) も「四本土を除く日本周辺の島で、3種以上のキツツキ類の繁殖が確認されているのは国後島だけであるので、これに次ぐ記録となる」と述べている。

日本の離島で繁殖する陸の鳥類について、島の面積と種数との間には  $\log S = 1.11 + 0.18 \cdot \log A$  という関係があることが知られている (樋口, 1982)。鈴木ほか (1980) の調査結果では、奥尻島で繁殖すると考えられる鳥類の53種 (ドバトを除く) という数は、この式から計算される種数より多い。この島ではキツツキ類だけではなく、他のグループの鳥類の種数も島の面積のわりには多いと言えるようで、この島の鳥類相の特徴の一つと言えるかもしれない。

## 文献

- 藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録. 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広.
- 藤巻裕蔵, 2009. 北海道における繁殖期の森林性鳥類の調査時期の検討. 森林野生動物研究会誌, (4): 12-15.
- Higuchi, H., 1980. Colonization and coexistence of woodpeckers in the Japanese Islands. *Journal of Yamashina Institute for Ornithology*, 12: 139-156.
- 樋口広芳, 1982. 島の鳥の生物学. 野鳥, 47(8): 12-16.
- 樋口広芳・小池重人, 1978. 日本列島およびその周辺諸島におけるキツツキ類の生息状況. 鳥, 27: 24-36.
- 環境庁, 1996. 平成7年度鳥類観測ステーション報告. 環境庁, 東京.
- 今野怜・藤巻裕蔵, 2001. 利尻島とその周辺海域における繁殖期の鳥類. 利尻研究, (20): 1-8.
- 小山政弘・小山弘昭, 1981. 奥尻島探鳥記. 北海道野鳥だより, (45): 7-9.
- 三浦二郎, 1988. 道立自然公園総合調査 (檜山道立自然公園) 報告書, 第2章鳥類. 道立自然公園総合調査 (檜山道立自然公園) 報告書, 176-202.
- 利尻島自然情報センター, 1997. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター, 利尻.
- 鈴木祥悟・由井正敏・伊達功・高橋和規, 1990. 奥尻島の鳥類—繁殖期の森林性鳥類群集—. 北方林業 42: 197-201.